

みどりの 東北 MIDORI NO TOHOKU

Vol.
215
東北森林管理局
2022/2



「厳冬の最上峡（山形県）」〔提供：山形森林管理署最上支署〕
※最上川船下りは「プロが選ぶ第5回水上観光船30選」で全国第1位になりました。

特集

今年度の取組を振り返って [津軽白神森林生態系保全センター]
[藤里森林生態系保全センター]

CONTENTS

■美しい森林づくり

「栗原市復興ふるさと植樹活動」の取組
～「岩手・宮城内陸地震」被害地を多様性のある
豊かな森林に再生するための活動～……………〔宮城北部森林管理署〕

■我が署の名所

分水嶺と封人の家が存在する堺田集落……………〔山形森林管理署最上支署〕



特集



今年度の取組を振り返って

津軽白神森林生態系保全センター

当センターでは、白神山地世界遺産地域の約75%に当たる青森県側の12,627haと周辺地域及び津軽半島の一部を活動エリアとしています。

活動内容は、貴重な森林生態系の適切な保全と利用、遺産地域の巡視活動、二ホンジカ対策及び森林環境教育などに取り組みとともに、地域と一緒になった活動にも取り組んでいます。

○白神山地世界遺産地域の保全管理

世界遺産地域の自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくため、職員による巡視や白神山地世界遺産地域連絡会議主催による合同パトロールを実施しています。

今年度も違法行為の防止や入山マナーの向上等を目的に7月と8月の2回、白神山地世界遺産地域巡視員、地元警察及び漁協関係者と共に合同パトロールを計画・実施しました。

第1回目は8月3日(火)、大川、ブナ林散策道、西股沢、追

良瀬川、白神岳の5コース(参加者28名)を実施したところ、



大川 巡視状況



追良瀬川 巡視状況

たき火や無断伐採等の違法行為やマナー違反は確認されませんでした。



ブナ林散策道パンフレット配布

第2回目は8月28日(土)、ブナ林散策道、クマガエラの森、赤石川、笹内川、白神岳の5コースを予定していましたが、コロナウイルス感染のリスクを回避する為、中止となりました。

来年度も入山マナー向上のため、職員による巡視、合同パトロールやチラシ配布による啓発活動を行っていき



白神岳

ますので、ご理解とご協力をお願いします。

○白神山地世界遺産地域巡視員会議

6月上旬に、令和3年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議(青森県側)を西目屋村中央公民館で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染のリスクを回避する為、書面による会議開催としたところです。

本来であれば、関係機関及び巡視員が一堂に会し、関係機関の今年度事業計画等について説明があり、巡視員への局長からの委嘱状交付、活動・入山マナーの協力依頼、二ホンジカ等の情報収集など、今年度の取組事項を確認するところですが書面による確認となりました。

入山シーズンが終わった12月8日(水)に、第2回目の巡視員会議を西目屋村中央公民館において、巡視員及び関係機関の40名の参加により開催しました。各機関から今年度の事業実績の報告等がありました。

今年度、遺産地域にアクセスするルートが5月末から全線通行可能となりましたが入山者については、大幅に減少しました。

また、マナー違反等の件数が昨年度に比べ6件増加の12件と倍増していることが報告されました。意見交換では、「入山者に対する周知しているのか」、「入林届について周知の方法の検討」について、活発な意見が述べられました。

○二ホンジカ対策

白神山地世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類のモニタリング調査において当センターでは32台のセンサーカメラを4月中旬から設置し、11月末まで二ホンジカの監視を合わせて行った結果、11件15頭の二ホンジカが撮影されました。12月以降もセンサーカメラを設置し監視を続け二ホンジカの移動経路や越冬地に関する参考データの収集を実施しています。



巡視員会議

また、ニホンジカの痕跡が見つかったことを踏まえ、来年度も引き続きニホンジカ対策に取り組んで参ります。



ニホンジカ



ニホンジカ

○森林環境教育等

5月12日(水)鱈ヶ沢こども園児(9人)と一緒に、津軽森林管理署と合同で「花いっぱい運動」を実施しました。

昨年は、コロナウイルス感染拡大の影響により中止しましたが、今年は感染状況も落ち着き、こども園からも是非行いたいとお話がありました。

園児とお母さんは親子でプラントターの作製・花の苗木を植える作業を笑顔で楽しくしていました。この活動は10年以上続いている活動でしたが、今年度こども園が閉園となることから今年が最後となりました。



花いっぱい運動

鱈ヶ沢町内小学生を対象と

した林業体験学習を行いました。10月5日(火)西海小学校14名、10月8日(金)舞戸小学校30名が国有林内において除伐作業、森林散策などの体験を行いました。

児童達は慣れないノコギリを使った作業に苦戦しながらも生育不良木を取り除いていました。

その後、植物探しのネイチャーゲームを行い、各班に分かれた小学生が協力しながら道の脇や頭上などいろいろなところに目を向けていました。植物等について職員から解説を受ける



林業体験学習



林業体験学習

この体験学習は津軽森林管理署と合同で実施しており、森林・林業へ少しでも目を向けてくれたらと思っています。

5月に予定していた津軽十二湖自然休養林内での第1回森林教室(深浦町と共催)については、新型コロナウイルス感染症のリスクを回避する為、残念ながら中止となりました。

10月23日(土)暗門の滝遊歩道内での第2回森林教室(西目屋村と共催)を実施しました。

当日は、雪・みぞれ・雨・曇りとめまぐるしく変わる天候でしたが、参加者4人は悪天候の中、マザーツリー・暗門の滝を散策しました。

コロナ禍の中、森林教室を開催するにあたって応募者が少ないという課題があり、PRの方法や開催日の検討、コースの見直しなど、応募者増員に向けて取り組みました。

今後も同様に取組んでいきたいと考えています。



森林教室

○自然再生活動事業

自然再生活動は白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を将来、白神山地本来の植生である広葉樹林に戻すことを目的に実施しています。

7月と9月の2回計画しましたが、9月については新型コロナウイルス感染症のリスクを回避する為中止となりました。

7月17日(土)鬼川辺国有林において参加者11名で実施しました。参加者は広葉樹の植樹を

行ったあと、暗門の滝周辺の大径木がある広葉樹林(ブナ散策道)を散策してもらい、植樹した広葉樹が将来大きくなることをイメージしてもらいました。

ブナ林散策の後、白神山地下流域にある津軽ダムを見学し、自然再生活動による植樹した森が水源になることなど職員から説明を受け参加者の方々は再生活動について実感していました。



自然再生活動



自然再生活動集合写真

○写真展及び活動展

昨年より、当センター1階会議室で職員撮影による写真展と業務を紹介する活動展を開催しています。

一昨年、新庁舎となり津軽白神森林生態系保全センターと国有林PRのため、開催しておりま

す。新たに撮影した動物・風景や



写真展

特集

今年度の取組を振り返って

藤里森林生態系保全センター

巡視活動の様子、センサーカメラで撮影された動物、巡視の際に使用している道具などを職員

の解説付きで展示しております。写真や活動内容については順次更新していきます。

近くを訪れた際は、是非お立ち寄りください。

「クマガウヤイヌワシの生息状況について何か情報はあるのか。」「被害を受けた林道の復旧予定は」といった質問が出され、関係各機関より回答がなされました。

巡視員の皆さんの一番の関心は、巡視活動のメインである粕毛林道の復旧工事関係で、林道の使用がいつから可能なのかといったことでした。米代西部森林管理署長から災害復旧箇所や工事期間中の通行止め措置について説明があり、工事の進捗状況を藤里森林生態系保全センターと共有することにより巡視員の皆様への速やかな情報提供をしたい、といった回答がありました。

会議は巡視員の皆様からの活発な発言によりとても有意義で、巡視員の皆様の白神山地に対する熱い思いが伝わる会議となりました。



第2回巡視員会議

○ニホンジカ対策

当センターでは白神山地世界遺産地域モニタリング計画に基づき、中・大型哺乳類調査を実施しており、その中でニホンジ

当センターでは、白神山地

世界遺産地域（秋田県側）4,344ha及び周辺地域の貴重な森林生態系について、適切な保全と利用を図るため、巡視活動を行い、併せて森林被害の確認、外来種植物の監視をしています。またニホンジカ対策や森林環境教育等の活動にも取り組んでいます。

○白神山地世界遺産地域の巡視活動

白神山地世界遺産地域を適切に保全するため、入山者の多い箇所を中心に、登山者への入山マナーの注意喚起や標識類の状況確認等を実施し、樹木の損傷や高山植物の盗掘等の違法行為が行われていないか巡視を行いました。また、白神山地世界遺産地域巡視員（ボランティア巡視員）の皆様による巡視活動についても行われました。

ボランティア巡視員の皆様か

らは、巡視の際に確認した林道や歩道等の状況、高山植物の開花状況、国民の入山状況等の情報提供をいただき白神山地の保全管理に大変役立つっており、何より白神山地のリアルな情報共有ができ何より心強い応援となっています。

予定されていた合同
パトロール
は、新型コ
ロナウイルス



田苗代湿原の植生確認巡視

スの影響と5月の大雨による主要林道の被害により、中止となったところです。令和4年度については、合同パトロールの実施予定となっている主要林道の災害復旧工事が計画されており、工事の進捗状況を確認しながら開催時期やパトロール箇所について検討していくこととなります。

力の生息域についても調査項目としていきます。

今年度は4月上旬から世界遺産地域周辺へセンサーカメラ30台を設置し撮影された動物についてとりまとめを行ってきました。11月末までの二ホンジカの撮影状況については、八峰町に設置した10箇所のセンサーカメラのうち6箇所で延べ23頭、藤里町に設置した19箇所のうち4箇所、延べ5頭、能代市に設置した1箇所では、1頭が撮影されました。昨年度と比較して八峰町での撮影が多い結果となっていますが、今年度は藤里町の奥山でも撮影されていることから、活動範囲が広がったか、若しくは頭数が増えたかのいずれかと思われます。また、藤里町ではイノシシが撮影されており、こちらも注意が必要です。いずれも生態系への影響が危惧されることから、今年度も低標高地ではセンサーカメラを引き続き冬期間も稼働させ、可能な箇所



センサーカメラにより撮影されたニホンジカ



センサーカメラにより撮影されたツキノワグマ

についてはデータ回収を行いなから、二ホンジカの生息調査を実施しています。

○オオハongoウソウ駆除

令和元年より、オオハongoウソウの駆除を実施しています。

まずは、昨年度に駆除した箇所を確認してみたところ、若芽があるわあるわ、これは大変だ、といった状況でした。昨年は、花を摘取ったり、若芽や根株を苦勞して掘り起こして駆除を試みたのですが、状況は、昨年より増えている、といった結果でした。根株の生命力はさまざまに繁殖力の強さを目の当たりにしたところです。全国での駆除事例からも中途半端な気持ちでは駆除はできない、と実感しているところですが、とにかく目につくところは駆除を行い、新潟県での駆除事例を参考に、試験的に駆除した箇所を遮光シートで覆い来春まで様子を見ることとしました。



オオハongoウソウの根



オオハongoウソウ 遮光シート

○森林環境教育等

1 研修棟のリニューアル

研修棟については、利用率の低さが顕著であったため、「コロナ禍の、今だからこそできる事をやろう。」といった組織目標を設定し視聴覚学習室のリニューアルに取り組みました。

スペースの約3分の2を展示室として「昔の林業写真」、「白神山地の樹木、花・山菜・きのこの写真」、「センサーカメラで撮影された動物たち」を展示したほか、天然秋田杉の輪切りや立体鏡など手で触れ体感できる展示物も設置しました。また、木工品倉庫については、松ぼっくりやどんぐり、トチの実などを利用した小木工製作体験が出来る木工実習室として整備しました。研修棟のリニューアルについては広報誌「白神通信」やホームページ、藤里町民祭で紹介したところ、地元新聞社からの取材や、学校関係者等から問い合わせがあったところとです。



リニューアルした実習室

2 藤里幼稚園「ブナの森探検」
新緑の6月に実施してきた藤

里幼稚園の「ブナの森探検」は新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれましたが、秋田県のコロナ対策レベルが3に引き下がった時期の10月に感染対策をしながら実施することができました。

1日目は白神山世界遺産センターでブナの森を探検する際のルールやマナー、ブナの木について事前学習を行い、2日目は岳岱自然観察教育林でブナの森探検を行いました。園児達には、「探検カード」を使い、シートにある写真と同じ葉を見つけてもらいました。探検の途中では甘い香りがする場所立ち止まり、カツラの葉のにおいに一喜一憂する場面もありました。また、白神のシンボルである「400年ブナ」ではその大きさに驚き、ブナの実を食べてみたり、林内の湧水を飲んだり、遊びながらの学習を存分に体験して笑顔をはじめさせ、普段では経験できない「探検」を満喫しました。



記念撮影

3 あきた白神の森倶楽部主催 「二ツ井キャンパス校植林体験 と自然観察会」

6月25日(金)、秋田県立能代高校二ツ井キャンパス校の生徒29名が、白神プロジェクト活動の一環として、植樹活動と白神山地の観察会を行い、当センターもNPO法人あきた白神の森倶楽部と一緒に活動へ協力しました。

白神プロジェクトとは、白神山地に世界一近い高校である能代高校二ツ井キャンパス校が、白神山地を教材とした総合学習を実施し、世界自然遺産である白神山地の魅力を外部に発信することを目的に行われているものです。

当日は午前中に植樹活動を行い、ブナのポット苗を生徒達がディンプルや鍬を使い、枝条に悪戦苦闘しながらも予定した苗木すべてを植えることができました。午後からは岳岱自然観察教育林で自然観察



植樹体験する二ツ井キャンパス生徒

を行い、白神の森の魅力を堪能し、森林の役割や白神山地の保全の大切さについて理解を深めました。

4 藤里小学校森林環境教育

藤里小学校からの要望を受け、生徒2名に対して「森林環境教育」を行いました。展示室の天然秋田杉の輪切りや白神山地の動植物の写真の説明、立体鏡による立体視体験の後に、実習室で木育(貯金箱作り)を行い、悪戦苦闘しながら貯金箱を組み立て、木の実を使いデコレーションして自分だけの貯金箱が完成しました。先生からは、もつと時間をかけて展示室を見たい、学校でもPRして利用していきたい、といった感想を頂きました。



貯金箱を作る小学生

5 つばめの森保育園森林環境教育

白神コミュニケーションズ主催によるつばめの森保育園の森林環境教育に協力しました。当センターでは、展示室の説明の

ほか、実習室でスギやエンジュのコースターへのお絵かき、屋外では、昔の雪ぞり運搬作業をイメージして、スギ伐根をロープでくくり、みんなでロープを引っ張って伐根を運んだり、わいわいガヤガヤ楽しい体験となったようです。

園児達は、メイインイベントの「ケツぞり」体験のため藤里スキー場へと向かいました。

○地域との関わり

藤里町民祭

11月6日(土)、藤里町で町民祭が開催され、当センターでは「パネル展示」と「缶バッチ製作体験」のコーナーを企画しました。

パネル展示では、森林教室の様子、センサーカメラを用いた中・大型哺乳類調査で撮影された動物たちの写真、ドローンで撮影した岳岱自然観察教育林の写真を展示しました。

中・大型哺乳類調査で撮影された写真では、夜に行動する動



天然秋田杉の輪切りを見て驚く園児

物が多く、人目に付きにくいためか、「こんなに沢山の種類の動物が居るの?」「この動物は、この辺りでは見たこと無かった。」など、白神山地周辺で撮影された動物を見たことない方が多く、興味深そうに写真を見ていました。

岳岱自然観察教育林の航空写真を立体鏡で見る体験では、立体視できず苦戦しているように見えたが、調整方法を教えると「おーっ」といった声が上がっていました。

缶バッチコーナーでは、400年ブナや白神山地の動植物などの台紙から好きなものを選んでもらい、職員は作り方の説明にとどめ、希望者本人による作成としました。缶バッチの絵が逆さになったり台紙がはみ出たりと、子供だけで無く大人も苦戦しているようでしたが、幼稚園児からおじいちゃんおばあちゃんまで幅広い年齢層の方々に楽しんでいただき盛況となったところです。



藤里町民祭で写真に見入る町民の皆様



美しい森林づくり

「栗原市復興ふるさと植樹活動」の取組

「岩手・宮城内陸地震」被害地を

多様性のある豊かな森林に再生するための活動

宮城北部森林管理署

平成二十年六月に発生した「岩手・宮城内陸地震」は、栗駒の山間地域に甚大な被害をもたらしたことから、治山事業等による復旧事業を行ってきました。被災前の多様性のある豊かな森林に早期に再生するために、復旧対策工事実施箇所周辺で、特定非営利法人「森林との共生を考える会」との共催によりボランティアによる植樹活動を実施しています。

この取組は、平成二十二年度からスタートし、平成三十年度からは行者滝（栗駒岳国有林十三林班へ小班内）付近において行っております。

今年度は十二回目で令和三年十月九日（土）に、新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら実施しました。参加者は、栗原市長をはじめ、

宮城北部地方振興事務所栗原地域事務所森林業振興部長、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター東北北海道整備局長、また、地元からは耕英地区振興協議会、栗駒の自然を守る会等十七名の参加をいただきました。森林との共生を考える会から二十一名、宮城北部森林管理署十一名、新聞記者一名の計五十名により作業間隔を取りながら植樹活動等を行いました。



記念標柱の建立

はじめに、考える会の副理事長阿部氏より、大規模な地震が発生した被災地について、これまで地域の皆様と連携協力しながら以前の美し

い森林に再生していく取組経過についてお話がありました。続いて、栗原市長よりボランティアによる自然回復活動に感謝とねぎらいのお言葉がありました。



初めての植樹体験

次に参加者紹介の後、記念標柱の建立と植樹活動を行いました。植樹活動では、主任治山技師官と花山首席森林官による植樹の実演の後、パーク堆肥、山土や肥料を攪拌して広葉樹の山取苗木を植え付けました。現地は、崩壊土砂等の土捨て場で、表土は堅く、排水も悪いため植付け箇所の滞水をくみ取りながらの作業もあり苦



笑顔で記念撮影

労しつつも、やがて大きく育つようお願いながら植樹し、笑顔での記念撮影となりました。最後に、昼食では地元名物のイワナ弁当を配布して解散となりました。

実施にあたってご協力をいただいた関係者の皆様、ありがとうございました。ありがとうございました。

今後も地域団体等と連携しつつ、引き続きボランティア活動等について、積極的に推進して参りたいと考えています。

痺れる辛さをもつ 香辛料

津軽森林管理署金木支署 奈良 真吾

チョコレート菓子やフランス料理等に使われ、近年世界で評価されている日本の香辛料をご存じですか。それは、爽やかな香りと痺れるような辛さが特徴の山椒です。日本では、鰻の蒲焼に粉山椒をふりかけて、また佃煮やちりめん山椒として食されています。

サンショウはミカン科サンショウ属の落葉低木です。光が当たる明るい場所を好み①、伐採跡地等に早くから生えてきます。春の新芽②を手で軽くたたくと、ミカン科の植物であることが容易に想像できる柑橘系の爽やかな香りが漂います。実がなる雌株には、小さな花③が咲きます。そして、緑色から赤く熟した実は、くす玉が割れるように割れ、中から黒い種が出てきます④。また、サンショウ属にはいくつかの種類がありますが、棘が対になっている⑤のがサンショウの特徴です。

日本では、サンショウを食するだけではなく、違う形でも利用してきました。宮沢賢治の作品に『毒もみのすきな署長さん』があります。主人公が、善悪の分別が麻痺するほど毒もみという違法な漁に夢中になるお話

です。毒もみは、川等に毒を流して魚を捕る漁のことをいい、その原料として使われるのがサンショウなのです。サンショウの樹皮の粉を入れた袋を川の中で揉んで、麻痺作用のあるサンショオールという成分を出し、魚を麻痺させて浮かんでくる魚を捕まえるのです。（毒もみは水産資源保護法で禁止されています。）

さて、サンショウの実を噛んでみると、実に含まれるサンショオールにより舌がピリピリと痺れてきます。痺れた状態で、醤油をつけずに刺身を食べると、旨味をより強く感じるだけではなく、なぜか塩気があるように感じるのです。これは味覚が麻痺したのではなく、舌の感覚が敏感に働いているために起こる現象だそうです。舌を痺れさせるサンショウですが、人への毒はありません。むしろ様々な薬効があると知られており、葉は木の芽として食され、実は香辛料、幹は胡麻等を擦るすりこ木として利用され、古くから日本人に親しまれてきたのです。



①光が当たる場所に生える幼木



②新芽



③雌株の花



④熟した実から出る黒い種



⑤対に生える棘



五葉山と 鉄の町

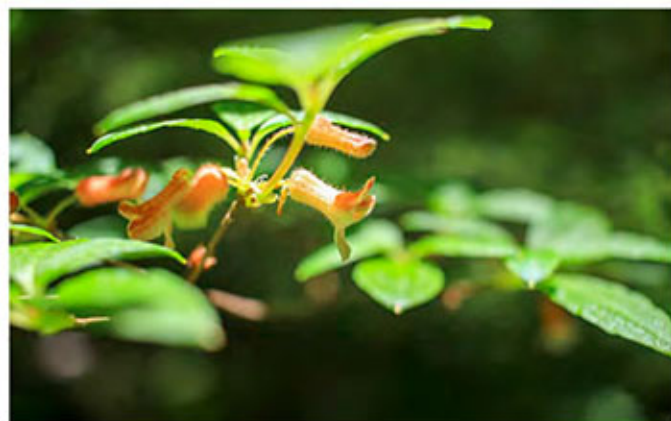


三陸中部森林管理署 森林官 藤原 祐哉



五葉山山頂

私の勤務する釜石森林事務所は、岩手県沿岸南部に位置する釜石市の約5千haの国有林を管轄しています。森林の状況は、人工林がスギ、アカマツ、カラマツ。天然林はブナ、ナラ類等の広葉樹が中心です。三陸らしく急傾斜な地形で石灰岩が多く見られ、五葉山（1,351m）愛染山（1,228m）を擁しています。五葉山は、三陸沿岸では最高峰であり、天候が良ければ北は山田湾から南は金華山まで展望することができます。五葉山周辺は、県立自然公園や保健保安林などに指定され、固有種であるゴウザンヨウラクやハイマツなどの高山植物が生育しており、自然観察や登山、レクリエーションの場として広く利用されています。また、コメツガとヒバを主とする



ゴウザンヨウラク

天然林など貴重な植物群落があることから、「五葉山植物群落保護林」を設定しています。

鉄の町として知られる釜石市には、現存する日本最古の洋式高炉跡「橋野鉄鉱山・高炉跡」が、2015年世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船・石炭産業」に登録されました。また、橋野高炉跡周辺の国有林は、釜石市と東北森林管理局が「橋野鉄鉱山郷土の森 保護協定」を結び、橋野鉄鉱山が稼働していた当時の広葉樹林の再生を目指し、間伐などの森林整備を行うとともに、自然教育や歴史教育の場を提供することを目的に、釜石市と共催で毎年育樹祭を開催しています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止になる中、感染対策を講じ参加者を限定し育樹祭を開催することができました。今後とも新型コロナウイルスが収束し、以前のような状況に戻る日まで育樹祭開催を途絶えさせないよう継続することが大切です。地域とのつながりを維持し連携協力を努めながら、「鉄の町」を支えてきた豊かな森林資源を未来の人たちに引き継げるよう、微力ながら職務に取り組みしていきたいと考えています。



橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭

我が署の名所



山形県最上郡最上町 山形森林管理署最上支署

分水嶺と封人の家ほうじんが存在する堺田集落

山形県最上郡最上町は山形県の北東部に位置し秋田県と宮城県に隣接する農林業と観光を中心とした町です。
この最上町には、「堺田分水嶺」と呼ばれる「分水嶺」が存在しております。
「分水嶺」とは降り注いだ雨が二つ以上の水系に分かれ、多くは、山岳の稜線などに存在しています。



旧有路家住宅 (通称:封人の家)

しかしながら、この「堺田分水嶺」は全国的に見ても大変珍しい堺田集落内の平坦な場所であり、アクセスも容易なことから堺田集落の観光スポットにもなっております。
「堺田分水嶺」の水脈は、西側(山形県側)は小国川、最上川を経て102kmを下り山形県酒田市の日本海側へ、東側(宮城県側)は江合川、旧北上川を経て116kmを下り宮城県石巻市の太平洋へ注ぎます。
東北地方の背骨とも言える奥羽山脈は、日本海と太平洋とを分ける「大分水嶺」と言われるそうです。



堺田分水嶺の流れ

整備された公園内には東屋も設置されており、ベンチに腰をかけながら水路を穏やかに流れる「大分水嶺」を眺めるのもいいものです。
また、近くには国の重要文化財である、旧有路家住宅(通称「封人の家」と呼ばれる茅葺きの古民家があります。



JR堺田駅前の看板

当時、旧有路家住宅は、村役場や旅館のような役割を担っていたようで、元禄二年(1689年)には松尾芭蕉が宿泊したとされ「奥の細道」に「封人の家」と記したことからこの呼び名で呼ばれるようになったようです。
この建物はクギを使わずに建てられており当時の建築技法を間近で見学できます。
「蚤虱(のみしらみ)馬の尿(ばり)する枕もと」芭蕉が宿泊したとき詠んだ句です。
当時は住居の中に馬屋があり大切に育てられていたようです。
奥羽山脈の「大分水嶺」と「封人の家」がある堺田集落、一度訪れてみてはいかがでしょうか。
※冬期間は積雪のため分水嶺は見られません。「封人の家」は公開期間が4月～11月となっております。(冬期間は閉鎖)



山形森林管理署最上支署

〒999-5312
山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11
TEL (0233) 62-2122
FAX (0233) 62-2706

